

これは、平成18年9月28日に行われた第3回宮崎県地方史講座で配付された資料です。「延岡藩における能楽」についてまとめたものです。わかりやすくするために、当日の資料の形で載せています。

第3回宮崎県地方史講座配付資料

「延岡藩における能楽」

延岡市内藤記念館 学芸員

増 田 豪

目 次

- 一 延岡藩における能楽
- 二 城下町延岡における能楽
- 三 「天下一について」

延岡藩における能楽

はじめに

◆能楽と猿楽、能と狂言

◆能の初見 『貞和五年春日若宮臨時祭記』(『日本庶民文化資料集成』第2巻)

貞和5年(1349)2月10日 春日臨時祭における巫女の猿楽能、禰宜の田楽能

1. 史料上にみる延岡と能楽

◆延岡での猿楽のはじまり

『延陵世鑑』 「吾田の庄に猿楽のはじまりは文保元丁巳年(1317)なり」

◆高橋家と能楽

今山八幡宮神事能のはじまり

『内藤家文書』 「日向延岡御城并町在所々所々覚書」(1713) 「浄菩提院書上由緒書」(1838)

『延陵世鑑』

高橋家入封以前からの能道具の存在・角坊との関係

『日向延岡伝書』 『延岡旧記諸集』

◆有馬家と能楽

神明宮(安賀多神社)神事能のはじまり

『内藤家文書』 「日向延岡御城并町在所々覚書」 「浄菩提院書上由緒書」

『延陵世鑑』

今山八幡宮神事能の様子

「延岡城下図屏風」(吉田精孝氏所蔵)

転封と能楽

『稲葉家文書』 「小川所助有馬左衛門佐国替一件覚」(1691)

江戸城二の丸での演能

『国乗遺聞』 『藤原有馬世譜』

貞享2年(1685)10月9日 「常憲公台命ニ依テ、公葛城ノ大夫御勤ナサレケル」

◆三浦家と能楽

延岡城西之丸での神事能稽古

『日録』 元禄14年(1701)3月14日条 「公在西丸観神事稽古能、賜酒羹」

神事能終了後の能役者への褒美と、西之丸での能の開催

『日録』 宝永5年(1708)10月19日条 「於西丸神事能勤候者へ御料理被下如例」

『日録』 宝永5年(1708)10月25日条 「明日於西丸御能御家中妻子迄見物被仰出」

『日録』 宝永5年(1708)10月26日条 「御能七番見物之者へ握飯煮染御酒被下」

神事能の番鼓・・・七番

饗応や接待、慰安、祝儀を目的とした能の開催

『日録』 元禄14年(1701)5月朔日条 「御参府為御祝儀行能五番于西丸」

能役者や能道具の制作者の存在

『日録』元禄15年10月朔日条 「竹田住居之浪人大谷五郎左衛門」

『九津見家文書』「御領分御先代御除高覚」年月日未詳

『九津見家文書』「御普請方・御船方・町方」元禄8年(1695)3月7日条

「小細工七郎右衛門、神明神事御能道具仕候ニ付而、御客屋ニ而仕、別火を給申候被

仰付、手伝定歩老人壺升飯米ニ申渡ス」

◆牧野家と能楽

『御家譜』享保20年10月15日条「延岡ニ而八幡神事能有之候ニ付若殿様始而御覧」

『御家譜』享保21年3月11日条「延岡ニ而神明神事能、若殿様始而御覧」

◆内藤家と能楽

今山八幡宮・神明宮神事能の春組、能役者

『内藤家文書』「岩城・延岡覚書」「古由緒書」「新由緒書」

藩主による演能

『内藤家文書』「岩城・延岡覚書」

2. 神事能における能道具をめぐって

◆伝えられる能道具

『内藤家文書』「祭礼並祈祷代参諸遷宮神事能取嚙」延享4年(1747)8月

「高橋時代より壺岐守様御代、城下町江被下来候ニ付」

『三浦家文書』「日州延岡御所替御用扣」正徳2年(1712)9月2日

『三浦家文書』「日録」正徳2年9月3日条・正徳2年9月11日条

『内藤家文書』「御能道具改帳」延享4年6月17日

◆能道具の管理

『内藤家文書』「諸役所年中行事 町方・寺社方・宗門方」寛政6年(1794)

3. 内藤記念館所蔵の能面をめぐって

◆内藤記念館所蔵の能面の特徴

種類別にみる特徴

面打ち師別にみる特徴

「天下一若狭守」 23面 ・ 「天下一是閑」 2点 ・ 「天下一友閑」 1点

「天下一備後」 1面 ・ 「天下一近江」 2点 ・ 「天下一大和」 1点

『内藤家文書』「御能道具改帳」延享4年6月17日

◆桧垣桐唐草蒔絵面箱の存在

◆内藤家文書等における内藤家所蔵の能面

「御能装束買料帳」

「面・扇・鬘帯・腰帯・紐露・小道具」

「能楽具目録」

◆故宮永恒一氏所蔵の能面 8面

「御能装束買料帳」

「面・扇・鬘帯・腰帯・紐露・小道具」

「能楽具目録」

